科目名	シミュレーション実習Ⅱ			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Simulation Training			総時間数	316	単　位	7
学　年	2	学　期	通年	曜　日	期間中随時	時　限	5･6

担当教員	矢野　博之 大﨑　聖敏	実務者経験	3年の消防経験(H10.救急救命士)その後、看護師として12年の臨床経験(H20.看護師) 10年の消防経験(H19.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	基本を応用し、現場活動を学ぶ。
到達目標	外傷処置、特定行為の実習を学び、想定訓練に活かせる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版）　、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	JPTEC、救急救命処置Ⅱはテストを実施する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	HR	キャリアサポートに関するアンケートの実施
2	HR	医学の専門基礎テスト
3	JPTEC	JPTEC導入
4	JPTEC	JPTEC導入
5	JPTEC	脊椎運動制限
6	JPTEC	脊椎運動制限
7	JPTEC	シミュレーション
8	JPTEC	シミュレーション
9	JPTEC	シミュレーション
10	JPTEC	シミュレーション
11	JPTEC	シミュレーション
12	JPTEC	シミュレーション
13	JPTEC	シミュレーション
14	JPTEC	シミュレーション
15	JPTEC	シミュレーション
16	JPTEC	シミュレーション
17	JPTEC	シミュレーション

18	JPTEC	シミュレーション
19	JPTEC	シミュレーション
20	JPTEC	シミュレーション
21	JPTEC	シミュレーション
22	JPTEC	シミュレーション
23	JPTEC	効果測定
24	JPTEC	効果測定
25	JPTEC	効果測定
26	JPTEC	効果測定
27	救急救命処置Ⅱ	異物除去シミュレーション
28	救急救命処置Ⅱ	異物除去シミュレーション
29	救急救命処置Ⅱ	異物除去シミュレーション
30	救急救命処置Ⅱ	異物除去シミュレーション
31	救急救命処置Ⅱ	声門上気道デバイス(基本想定)
32	救急救命処置Ⅱ	声門上気道デバイス(基本想定)
33	救急救命処置Ⅱ	声門上気道デバイス(基本想定)
34	救急救命処置Ⅱ	声門上気道デバイス(基本想定)
35	救急救命処置Ⅱ	声門上気道デバイス(基本想定)
36	救急救命処置Ⅱ	声門上気道デバイス(基本想定)
37	救急救命処置Ⅱ	声門上気道デバイス(基本想定)
38	救急救命処置Ⅱ	声門上気道デバイス(基本想定)
39	救急救命処置Ⅱ	声門上気道デバイス(基本想定)
40	救急救命処置Ⅱ	声門上気道デバイス(基本想定)
41	救急救命処置Ⅱ	静脈路確保基本手技
42	救急救命処置Ⅱ	静脈路確保基本手技
43	救急救命処置Ⅱ	静脈路確保基本手技
44	救急救命処置Ⅱ	静脈路確保基本手技
45	救急救命処置Ⅱ	静脈路確保基本手技
46	救急救命処置Ⅱ	静脈路確保基本手技
47	救急救命処置Ⅱ	静脈路確保基本想定

48	救急救命処置Ⅱ	静脈路確保基本想定
49	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
50	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
51	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
52	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
53	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
54	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
55	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
56	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
57	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
58	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
59	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
60	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
61	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
62	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
63	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
64	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
65	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
66	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
67	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
68	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
69	気管挿管	気管挿管講義
70	気管挿管	気管挿管講義
71	実科査閲	大阪府消防学校見学
72	実科査閲	大阪府消防学校見学
73	海外(国内)研修説明会	海外(国内)研修に関する導入
74	海外(国内)研修説明会	海外(国内)研修に関する導入
75	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション効果測定
76	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション効果測定
77	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション効果測定

78	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション効果測定
79	救急救命処置Ⅱ	特定行為振り返り
80	救急救命処置Ⅱ	特定行為振り返り
81	救急救命処置Ⅱ	自動式心臓マッサージ
82	救急救命処置Ⅱ	自動式心臓マッサージ
83	救急救命処置Ⅱ	血糖測定 ブドウ糖投与
84	救急救命処置Ⅱ	血糖測定 ブドウ糖投与
85	救急救命処置Ⅱ	気管挿管応用、シミュレーション
86	救急救命処置Ⅱ	気管挿管応用、シミュレーション
87	気管挿管	気管挿管実技
88	気管挿管	気管挿管実技
89	徽章授与式	徽章授与式訓練
90	徽章授与式	徽章授与式訓練
91	訓練参加	兵庫県訓練
92	訓練参加	兵庫県訓練
93	訓練参加	兵庫県訓練
94	訓練参加	兵庫県訓練
95	徽章授与式	SPIテスト、徽章授与式訓練
96	徽章授与式	徽章授与式訓練
97	徽章授与式	徽章授与式訓練
98	徽章授与式	徽章授与式訓練
99	徽章授与式	徽章授与式訓練
100	徽章授与式	徽章授与式訓練
101	徽章授与式	徽章授与式訓練
102	徽章授与式	徽章授与式訓練
103	気管挿管	気管挿管実技、試験
104	気管挿管	気管挿管実技、試験
105	徽章授与式	徽章授与式訓練
106	徽章授与式	徽章授与式訓練
107	徽章授与式	徽章授与式

108	徽章授与式	徽章授与式
109	徽章授与式	徽章授与式
110	徽章授与式	徽章授与式
111	模擬試験	第5回模擬試験A問題
112	模擬試験	第5回模擬試験A問題
113	模擬試験	第5回模擬試験BCD問題
114	模擬試験	第5回模擬試験BCD問題
115	海外国内研修	海外国内研修
116	海外国内研修	海外国内研修
117	海外国内研修	海外国内研修
118	海外国内研修	海外国内研修
119	海外国内研修	海外国内研修
120	海外国内研修	海外国内研修
121	海外国内研修	海外国内研修
122	海外国内研修	海外国内研修
123	海外国内研修	海外国内研修
124	海外国内研修	海外国内研修
125	海外国内研修	海外国内研修
126	海外国内研修	海外国内研修
127	模擬試験	第6回模擬試験A問題
128	模擬試験	第6回模擬試験A問題
129	模擬試験	第6回模擬試験BCD問題
130	模擬試験	第6回模擬試験BCD問題
131	解剖実習	大阪大学へ系統解剖実習
132	実習前研修	オリエンテーション、記録（チェックリスト・評価表・薬剤投与記録・実習記録）
133	実習前研修	各病院の説明(前年度同施設実習生代表が入ってのグループミーティング）
134	実習前研修	輸液について、ドレーン管理について
135	実習前研修	患者搬入・初療室の流れについて、初療室・ICU の１日の流れについて、　重症患者の観察、救急での検査・器材・薬品、救急カートなど
136	実習前研修	実習の計画(初日の実習目標・実習項目を挙げ、それについての予習）記録について考察の考え方

137	実習前研修	十二誘導心電図の測定法
138	実習前研修	気管内吸引・気管チューブの固定、カフ圧の理解・測定など
139	実習前研修	フィジカルアセスメント
140	実習前研修	静脈ルート（血管の選択、皮膚消毒、穿刺、固定法など)血糖測定 静脈ルート(ルート作成、三方活栓の使用法・エピネフリン・ブドウ糖溶液の投与法など）
141	実習前研修	感染予防（病院の清潔管理・清潔操作・　手洗い方法、手指消毒法、）　時間が余れば、ガウンテクニック・グローブ着脱など
142	実習前研修	車椅子の使用法、ベットでの患者搬送　（時間があれば、患者移動法、シーツ交換、清拭、体位交換）
143	実習前研修	集中治療における酸素療法の選択（高、低流量システム）
144	実習前研修	〃
145	実習前研修	血液浄化療法の特徴、実際の使用法について
146	実習前研修	〃
147	実習前研修	体外循環療法の特徴、実際の使用法について
148	実習前研修	〃
149	病院実習レポート	実習内容についてのレポート作成および修正
150	病院実習レポート	実習内容についてのレポート作成および修正
151	病院実習レポート	実習内容についてのレポート作成および修正
152	病院実習レポート	実習内容についてのレポート作成および修正
153	病院実習レポート	実習内容についてのレポート作成および修正
154	病院実習レポート	実習内容についてのレポート作成および修正
155	病院実習レポート	実習内容についてのレポート作成および修正
156	病院実習レポート	実習内容についてのレポート作成および修正
157	病院実習レポート	実習内容についてのレポート作成および修正
158	病院実習レポート	実習内容についてのレポート作成および修正

科目名	接遇と安全管理			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Reception & Service			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	金	時　限	5･6

担当教員	平田　誠 森本　幸夫	実務者経験	病院救命士として15年の臨床経験（救急救命士） 消防経験40年勤務ののち東洋医療学校で教員として7年、病院救命士指導顧問として現在に至る（救急救命士）

学習内容	傷病者、家族に対する接遇要領、安全管理について、ストレスマネージメントについて、テキストを通して学習する。
到達目標	救急救命士として傷病者やその家族と接する時の接遇とはどういうものかを理解できる 救急救命士自身、また傷病者の安全管理が行えるよう理解することができる 救急救命士自身のストレスマネージメントとはどういうことか理解できる

準備学習 時間外学習	講義内容の復習を行う。
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	自己紹介	■他者に情報を適切に伝達するということを意識した自己紹介 (声の大きさや態度、話し方を意識する)
2	救急救命士と傷病者との関係	■傷病者とのコミュニケーションの技法と初期対応について ■安心につながる対応、精神的援助、死者その家族とのかかわり ■インフォームドコンセントと生前意思表示について
3	安全管理	■安全管理とリスクマネージメント ■傷病者の安全管理（転倒・転落防止、チューブ・カテーテル類管理、誤嚥防止、感染予防） ■救急隊員の安全管理（業務上の事故、感染防御）
4	フィジカルアセスメント	■フィジカルアセスメント（呼吸・循環・意識・腹部）の理解
5	ストレスに対するマネージメント	■救急活動でのストレス（ストレスの意味、対応、ＰＴＳＤについて） ■救急活動でのストレス対応（ＰＴＳＤに対するケア、環境整備）
6	トリアージ学習	■トリアージの基礎の理解 ■トリアージペーパー演習
7	まとめ	全体を通しての復習(重要事項の再確認)
8	終講義試験	

科目名	心肺停止			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Cardio-Pulmonary Arrest			総時間数	30	単　位	2
学　年	2	学　期	前期	曜　日	火土	時　限	5･6

担当教員	矢野　博之	実務者経験	3年の消防経験(H10.救急救命士)その後、看護師として12年の臨床経験(H20.看護師)

学習内容	心肺停止の判断や、病態生理と救急処置法などを中心に理解できる。
到達目標	心肺停止の概念、病態について理解し、救急蘇生法の最新のガイドラインを学習することで、救急活動におけるプロトコールを理解、習得する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版、ほか。
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	心肺停止総論	・定義、概念、疫学についての最新資料　・救急活動基準に記載されている心肺停止に関する定義　・早期、晩期死体現象（死後変化）　・ウツタイン様式について説明。
2	心肺停止に至る病態と原因	・不整脈、低心拍出量　・心臓振盪について
3	心肺停止に至る病態と原因	・呼吸不全　・乳幼児突然死症候群に関する知見　・脳障害、急性中毒、電解質異常、電撃症など
4	心肺停止に至る病態と原因	・生体酸素状況　・主な原因疾患について（5H5T）　・心電図分類
5	心肺蘇生中の病態	・胸骨圧迫による循環発生の機序　・心肺蘇生中の冠循環と脳循環
6	心肺蘇生中の病態	・心肺蘇生中の呼吸循環（呼気終末二酸化炭素分圧の重要性　・胸骨圧迫の効果に影響する因子（血管収縮薬、陽圧換気など）
7	心拍再開後の病態	・虚血　・再灌流障害　・循環、神経機能の回復過程
8	心拍再開後の病態	・心拍再開後の経過に影響する因子（酸素、二酸化炭素、体温、血糖、痙攣など） ・ガイドライン2015記載内容
9	救急蘇生法	・蘇生ガイドラインの歴史　・蘇生ガイドラインの成り立ち　・AHA、ERC、JRC
10	蘇生ガイドライン	・一次救命処置（市民用）　・ガイドライン2015
11	救急隊員による一次救命処置	・一次救命処置（医療用）　・ガイドライン2015　・市民による一次救命処置についても講義
12	心肺蘇生に関する病院前救護のプロトコール	・病院前救護の心肺蘇生に関するプロトコール　・心停止アルゴリズム　・心肺機能停止対応業務ムロトコール　・包括的指示下除細動プロトコール　・器具を用いた気道確保プロトコール　・薬剤投与プロトコール　・VF/無脈性VTへの対応　・無脈静電気活動/心静止への対応
13	医療機関での治療	・二次救命処置　・特殊な二次救命処置（PCPS、開胸式心マッサージ）　・心拍再開後の集中治療
14	小児の救急蘇生法・乳児の救急蘇生法	・ガイドライン2015の内容も合わせて
15	まとめ	・最近の国家試験問題ほか

科目名	ショック・循環不全			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Shock・Circulatory Failure			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	火土	時　限	5･6

担当教員	矢野　博之	実務者経験	3年の消防経験(H10.救急救命士)その後、看護師として12年の臨床経験(H20.看護師)

学習内容	ショック・循環不全の病態生理と救急処置法などを中心に理解できる。
到達目標	ショック、心不全の病態生理を理解する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版、ほか。
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	心不全	・心不全の定義、原因疾患　・心不全の病態生理
2	心不全	・心不全の症候　・心不全の種類　・現場活動の留意点
3	ショック	・ショックの定義と分類
4	ショック	・ショックの分類毎の病態生理
5	ショック	・循環血液量減少性ショックの病態と原因疾患　・心原性ショックの病態を原因疾患
6	ショック	・心外閉塞拘束性ショックの病態と原因疾患　・血液分布異常性ショックの病態と原因疾患
7	まとめ	まとめ
8	試験	終講義試験

科目名	意識障害			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Conscious Disturbance			総時間数	16	単　位	合わせて2
学　年	2	学　期	前期	曜　日	木	時　限	5･6

担当教員	今村　行雄	実務者経験	救急医学講座教員（非常勤・大阪大学医学部附属病院） 関西医科大学研究員 京都大学工学研究科・研究員

学習内容	意識障害の傷病者の救急搬送に対応できるように学習する。
到達目標	救急救命士に必要な重症脳障害と意識障害の病態、重症度・緊急度判断、現場対応について理解して説明できる。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版
留意点 備　考	

成績評価	2択の問題と穴埋め問題で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	重症脳障害	総論、発症機序
2	重症脳障害	一次性脳病変、二次性脳病変
3	重症脳障害	頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア
4	意識障害	原因疾患
5	意識障害	随伴症候
6	意識障害	鑑別を要する病態
7	意識障害	重症度・緊急度の判断、現場活動
8	まとめと試験	

科目名	意識障害			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Conscious Disturbance			総時間数	16	単　位	合わせて2
学　年	2	学　期	前期	曜　日	木	時　限	5･6

担当教員	大﨑　聖敏	実務者経験	10年の消防経験(H19.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	意識障害の傷病者の救急搬送に対応できるように学習する。
到達目標	救急救命士に必要な重症脳障害と意識障害の病態、重症度・緊急度判断、現場対応について理解して説明できる。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版
留意点 備　考	

成績評価	2択の問題と穴埋め問題で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	重症脳障害	総論、発症機序
2	重症脳障害	一次性脳病変、二次性脳病変
3	重症脳障害	頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア
4	意識障害	原因疾患
5	意識障害	随伴症候
6	意識障害	鑑別を要する病態
7	意識障害	重症度・緊急度の判断、現場活動
8	まとめと試験	

科目名	救急症候学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Emergency Symptomatology			総時間数	46	単　位	3
学　年	2	学　期	前期	曜　日	水	時　限	5･6

担当教員	喜代平　要一	実務者経験	29年の消防経験(H13.救急救命士)

学習内容	各種疾患の症候を病態生理と関連付けて理解し、症候・病態ごとの観察・評価・処置について理解できる
到達目標	症候から、救急医療において必要な鑑別診断ができる。臨床の場において、しなければならない事を把握し、実際に活用できるレベルと及び国家試験に対応できるレベルに到達する事を目標とする。

準備学習 時間外学習	各講義ごとに配布する演習問題を中心に復習する。
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版　配布プリント　演習問題
留意点 備　考	講義の進捗状況により内容が前後する事がある。

成績評価	期末に試験を実施し、評価する

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	呼吸不全	呼吸不全の概念・病態・換気障害・代表的な疾患について理解し説明できる。
2	呼吸不全	呼吸不全の概念・病態・換気障害・代表的な疾患について理解し説明できる。
3	頭痛	頭痛の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
4	頭痛	頭痛の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
5	痙攣	痙攣の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
6	痙攣	痙攣の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
7	運動麻痺・めまい	運動麻痺及びめまいの機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
8	運動麻痺・めまい	運動麻痺及びめまいの機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
9	呼吸困難・喀血	呼吸困難・喀血の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
10	呼吸困難・喀血	呼吸困難・喀血の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
11	失神	失神の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
12	失神	失神の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
13	胸痛	胸痛の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
14	胸痛	胸痛の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
15	動悸	動悸の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
16	動悸	動悸の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。

17	腹痛	腹痛の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
18	腹痛	腹痛の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
19	吐血・下血	吐血・下血の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
20	吐血・下血	吐血・下血の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
21	腰痛・背部痛 体温上昇	腰痛・背部痛・体温上昇の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
22	腰痛・背部痛 体温上昇	腰痛・背部痛・体温上昇の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
23	試験	

科目名	疾病救急医学Ⅰ(神経系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Neural Diseases			総時間数	18	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	木	時　限	5･6

担当教員	今村　行雄	実務者経験	救急医学講座教員（非常勤・大阪大学）

学習内容	神経系疾患を理解し、傷病者の救急搬送に対応できるように学習する。
到達目標	救急救命士に必要な神経系疾患の理解、また主要な症候、基本的な対応について理解して説明できる。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読
使用教材	救急救命士　標準テキスト第11版　　出版社（へるす出版）
留意点 備　考	

成績評価	2択の問題で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	総論	疫学、主要症候、基本的対応
2	主な神経系疾患	概要、脳卒中
3	脳血管障害	脳梗塞
4	脳血管障害	くも膜下出血
5	脳血管障害	脳出血
6	脳血管障害	一過性脳虚血発作、脳動静脈奇形、もやもや病
7	感染症 末梢神経疾患	髄膜炎、脳炎、脳症、脳膿瘍、ギラン・バレー症候群、糖尿病性ニューロパチー
8	その他	てんかん、脳腫瘍、変性疾患(パーキンソン病、ALS、アルツハイマー病など)
9	まとめと試験	

科目名	疾病救急医学Ⅰ(感覚器口腔系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Sensory & Oral Diseases			総時間数	14	単　位	神経系と合わせて1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	期間中随時	時　限	5.6

担当教員	喜代平　要一 横田　祐介 橋本　典子	実務者経験	眼科分野：29年の消防経験(H13.救急救命士) 口腔外科診療及び治療に12年携わる 耳鼻咽喉科診療及び治療に27年携わる

学習内容	感覚器口腔分野の解剖を理解したうえで主な疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを学ぶ
到達目標	救急救命士に必要な感覚器系疾患の理解、また主要な症候、基本的な対応について理解して説明できる。

準備学習 時間外学習	毎回の講義後、復習をしておく
使用教材	救急救命士標準ﾃｷｽﾄ改定第10版
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	顎･口腔の解剖および、代表疾患	歯･口腔系の構造を理解した上で、疾患について理解する。 救急現場おける対処法について理解する。
2	口腔外科学および、口腔外傷対処法	〃
3	耳鼻咽喉科	聴覚器の解剖
4	〃	末梢性めまい、炎症(中耳炎、鼓膜穿孔) 鼻の疾患(鼻出血、急性副鼻腔炎)
5	眼の主要症候と救急疾患	眼科領域の解剖 視覚障害と各眼科的救急疾患の理解を深める
6	〃	急性緑内障発作、網膜中心動脈閉塞症、網膜剥離、結膜炎･角膜炎、白内障、視神経炎
7	試験	

科目名	疾病救急医学Ⅱ(呼吸器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Respiratory Diseases			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	木	時　限	5･6

担当教員	今村　行雄	実務者経験	救急医学講座教員（非常勤・大阪大学医学部附属病院） 関西医科大学研究員 京都大学工学研究科・研究員

学習内容	呼吸器疾患を理解し、傷病者の救急搬送に対応できるように学習する。
到達目標	救急救命士に必要な呼吸器系疾患の理解、また主要な症候、基本的な対応について理解して説明できる。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版（へるす出版）
留意点 備　考	

成績評価	2択の問題で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	総論	疫学、主要症候、基本的対応
2	主な呼吸系疾患	急性呼吸不全、慢性呼吸不全、CO2ナルコーシス
3	上気道の疾患	急性喉頭蓋炎、扁桃周囲膿瘍
4	下気道と肺胞の疾患	気管支喘息、COPD ＜慢性閉塞性肺疾患＞
5	下気道と肺胞の疾患	無気肺、気管支拡張症
6	感染症	肺炎、肺結核、急性上気道炎
7	胸膜疾患 その他の呼吸系疾患	気胸、胸膜炎、肺血栓塞栓症、過換気症候群、ARDS ＜急性呼吸促迫症候群＞、間質性肺炎
8	まとめと試験	

科目名	疾病救急医学Ⅱ(循環器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Circulatory Diseases			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	木	時　限	5･6

担当教員	今村　行雄	実務者経験	救急医学講座教員（非常勤・大阪大学医学部附属病院） 関西医科大学研究員 京都大学工学研究科・研究員

学習内容	循環器疾患を理解し、傷病者の救急搬送に対応できるように学習する。
到達目標	救急救命士に必要な循環器系疾患の理解、また主要な症候、基本的な対応について理解して説明できる。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読
使用教材	救急救命士　標準テキスト第11版　　出版社（へるす出版）
留意点 備　考	

成績評価	2択の問題で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	総論 主な循環系疾患	疫学、主要症候、基本的対応、概要、急性冠症候群、心電図の基本
2	虚血性心疾患	心筋梗塞、不安定狭心症、安定狭心症
3	心不全	うっ血性心不全
4	心筋疾患 心膜疾患	心筋炎、心タンポナーデ
5	不整脈	心臓突然死、心室細動、心室頻拍、心房細動、房室ブロック
6	その他の心疾患 血管疾患	感染性心内膜炎、弁膜症、先天性心疾患、急性大動脈解離、大動脈瘤 急性四肢動脈閉塞症、深部静脈血栓症
7	高血圧症	高血圧緊急症
8	まとめと試験	

科目名	疾病救急医学Ⅲ(消化器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Digestive Diseases			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	水	時　限	5･6

担当教員	岡崎　智	実務者経験	2012年４月から関西医科大学附属病院外科勤務。一般診療、手術、救急医療を行っている。現在、大学病院講師の職。

学習内容	消化器疾患の基礎および多彩な臓器の多彩な病態を学んで理解する。
到達目標	消化器疾患の基礎を学び、ある程度の疾患の鑑別および重症度の判断ができるようになり、臨床の場に応用できるレベルになる。

準備学習 時間外学習	事前にテキストの閲読、講義ごとの復習が必要
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	**総論**	消化器総論、疫学
2	**総論**	主要症候、基本的対応
3	**上部消化管**	上部消化管疾患、概要、急性腹症
4	**〃**	食道静脈瘤、マロリーワイス症候群、胃・十二指腸潰瘍、急性胃粘膜病変 急性胃腸炎、アニサキス症など
5	**下部消化管**	イレウス、上腸間膜動脈閉塞症、急性虫垂炎、ヘルニア嵌頓、大腸穿孔、虚血性大腸炎、潰瘍性大腸炎、痔核など
6	**〃**	急性腹膜炎など
7	**肝胆膵**	急性肝炎、肝硬変、胆石症、急性胆嚢炎・急性胆管炎、急性膵炎など
8	**まとめと試験**	

科目名	疾病救急医学Ⅲ(泌尿生殖器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Uro-Genital Diseases			総時間数	10	単　位	消化器疾患と合わせて1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	月	時　限	5･6

担当教員	辻畑　正雄	実務者経験	大学病院、市中病院等で30年泌尿器科で診療・治療に携わる

学習内容	
到達目標	泌尿器・男性生殖器領域の解剖・生理について理解し、同領域における救急疾患を中心に学習する

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版）　　スライドなど
留意点 備　考	

成績評価	試験を行う

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	泌尿器、生殖器の 解剖生理	泌尿器・男性生殖器の解剖および生理
2	泌尿器疾患	腎不全および尿路結石症について
3	泌尿器生殖器疾患	前立腺肥大症、尿路感染症、尿路性器癌
4	泌尿器の外傷	救急外傷について
5	試験	試験

科目名	疾病救急医学Ⅳ(内分泌代謝栄養系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Humoral,Metabolic & Nutritious Diseases			総時間数	8	単　位	血液免疫疾患と合わせて1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	火・土	時　限	5･6

担当教員	大﨑　聖敏	実務者経験	10年の消防経験(H19.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	内分泌器官・代謝器官の解剖・生理と主な疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に理解できる
到達目標	内分泌疾患、代謝栄養疾患に関する基礎的知識の習得と必要な現場処置について習得する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版（へるす出版）ほか
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	総論、糖尿病	主要症候、緊急度・重症度の判断。糖尿病の病態・分類・治療
2	糖尿病 その他の代謝異常	低血糖の病態・症状・治療、、糖尿病性昏睡の分類・病態・治療、脱水、水電解質異常、酸塩基平衡の障害、痛風
3	内分泌疾患 栄養疾患、	甲状腺機能異常、副腎機能異常、肥満とるいそう、ビタミン欠乏症
4	まとめ	
5	終講義試験	終講義試験

科目名	疾病救急医学Ⅳ(血液免疫系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Blood & Immune Diseases			総時間数	8	単　位	内分泌代謝栄養系と合わせて1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	月	時　限	5･6

担当教員	谷村　博久	実務者経験	1986年から大阪大学医学部第一内科勤務、1990年から大阪警察病院内科勤務、 2003年から大阪回生病院内科勤務、現在、副院長、内科統括部長、消化器センター長兼務。

学習内容	血液・体液の解剖と生理を理解した上で血液免疫疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを学ぶ。
到達目標	血液免疫疾患の主な症候をあげ、それぞれについて概要を説明できる様になる。

準備学習 時間外学習	事前にテキストの閲読、講義ごとの復習が必要
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	**血液免疫総論　　血液各論**	救急医療における意義、血液・免疫系疾患の主要症候、1)出血傾向/2)リンパ節腫脹/3)肝脾腫、緊急度・重症度の判断、応急処置と搬送、医療機関選定
2	**〃**	貧血、血小板減少症、白血病、血友病、紫斑病、播種性血管内凝固症候群(DIC)、顆粒球減少症、止血に影響を与える薬剤(経口抗凝固薬/2)抗血小板薬)
3	**免疫各論**	1.アナフイラキシー、1)定義・概念/2)疫学/3)原因/4)病態/5)症候/6)現場活動/7)医療機関での診療/8)予後
4	**〃 まとめ、演習**	2.アレルギー性疾患、1)薬物アレルギー/2)食物アレルギー/3)血清病 3.自己免疫疾患、4.膠原病
5	**テスト**	

科目名	疾病救急医学Ⅴ(筋骨格・皮膚系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Musculo-Skeletal Diseases･Skin Diseases			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	水	時　限	5･6

担当教員	小笠　智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。

学習内容	筋・骨格系の解剖・生理と筋骨格系疾患の主な症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学習する。 皮膚の構造と機能と皮膚疾患の主な症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学習する。
到達目標	筋・骨格系疾患の主な症候・皮疹の観察・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方を説明できる。 皮膚系疾患の主な症候・皮疹の観察・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方を説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「救急救命士標準テキスト第11版」（へるす出版）
留意点 備　考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	筋骨格系疾患１	筋骨格系疾患の総論、主要症候、基本的対応　の　理解　と　習得
2	筋骨格系疾患２	脊椎疾患　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
3	筋骨格系疾患３	関節疾患　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
4	筋骨格系疾患４	筋疾患　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
5	皮膚系疾患１	皮膚系疾患の総論、主要症候、基本的対応　の　理解　と　習得
6	皮膚系疾患２	皮膚・軟部組織の感染症　の　原因　病態　症状　診断　治療法の　理解　と　習得
7	皮膚系疾患３	皮膚アレルギー疾患　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
8	終講義試験	

科目名	一般外傷			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Trauma			総時間数	46	単　位	3
学　年	2	学　期	通年	曜　日	火木土	時　限	5･6

担当教員	大﨑　聖敏	実務者経験	10年の消防経験(H19.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	各外傷についての受傷機転、発生機序、病態、症状、評価・鑑別、予後や救急処置・搬送方法等について理解できる。
到達目標	外傷の受傷機転別に受傷形態、外傷分類、病態生理を理解することで外傷の現場活動のポイントを整理する。 各種外傷（頭部外傷、顔面頸部外傷、脊椎脊髄外傷、胸部外傷、腹部外傷、骨盤外傷、四肢外傷、皮膚軟部組織外傷、小児高齢者妊婦の外傷）別に、疫学、受傷機転、病態生理、現場活動における注意点につき学習する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版、ほか。
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	外傷総論	外傷の疫学、受傷機転、外傷分類、受傷形態につき学習する。
2	外傷総論	外傷の疫学、受傷機転、外傷分類、受傷形態につき学習する。
3	外傷の病態生理	外傷時の生体反応（循環動態、炎症性メディエータ）につき学習する。
4	外傷の病態生理	外傷時の生体反応（循環動態、炎症性メディエータ）につき学習する。
5	外傷の病態生理/外傷の現場活動	外傷時の生体反応につき学習する。
6	外傷の病態生理/外傷の現場活動	外傷時の現場活動の要点・注意点につき学習する。
7	外傷の現場活動	外傷時の現場活動の要点
8	外傷の現場活動	・注意点につき学習する。
9	頭部外傷	頭部外傷の疫学、受傷機転、各種受傷形態と病態につき学習する。
10	頭部外傷	頭部外傷の疫学、受傷機転、各種受傷形態と病態につき学習する。
11	顔面・頸部外傷	顔面・頸部外傷の疫学、受傷機転、各種受傷形態と病態につき学習する。
12	まとめ・試験	まとめ（国家試験問題他）と終講義試験
13	脊椎・脊髄外傷	脊椎・脊髄外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
14	脊椎・脊髄外傷	脊椎・脊髄外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
15	胸部外傷	胸部外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
16	胸部外傷	胸部外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。

17	腹部外傷	腹部外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
18	腹部外傷	腹部外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
19	骨盤外傷	骨盤外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
20	骨盤外傷	骨盤外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
21	四肢外傷、　　皮膚・軟部組織外傷	四肢外傷・皮膚軟部組織外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。 同傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
22	小児・高齢者・妊婦の外傷、	小児・高齢者・妊婦の外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。同傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
23	まとめ・試験	まとめと終講義試験

科目名	特殊外傷(熱傷電撃症化学損傷・異物縊頸刺咬傷)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Burn・Foreign Body, Hanging, Sting & Bite			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	水	時　限	5･6

担当教員	小笠　智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。

学習内容	異物縊頸刺咬傷などの特殊外傷の病態生理、症状・評価・鑑別・余語・救急処置・搬送方法　などを中心に学習する。熱傷電撃症化学損傷などの特殊外傷の病態生理、症状・評価・鑑別・余語・救急処置・搬送方法　などを中心に学習する。
到達目標	異物縊頸刺咬傷の病態・分類・主な症候・危険因子・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方・処置を説明できる。熱傷電撃症化学損傷異物縊頸刺咬傷の病態・分類・主な症候・危険因子・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方・処置を説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「救急救命士標準テキスト第11版」（へるす出版）
留意点 備　考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	終講義試験で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	異物・縊頸・刺咬傷１	気道異物・消化管異物　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
2	異物・縊頸・刺咬傷２	耳目鼻性器の異物・縊頸　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
3	異物・縊頸・刺咬傷３	哺乳類・爬虫類による咬傷　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
4	異物・縊頸・刺咬傷４	節足動物・海洋生物による刺咬傷　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
5	熱傷電撃症化学損傷１	熱傷　の　病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置　の　理解　と　習得
6	熱傷電撃症化学損傷２	化学損傷　の　病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置　の　理解　と　習得
7	熱傷電撃症化学損傷３	電撃症・雷撃症　の　病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置　の　理解　と　習得
8	特殊外傷	試　　験

科目名	環境障害・急性中毒学(環境障害)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Environmental Diseases			総時間数	12	単　位	急性中毒学と合わせて1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	水	時　限	5･6

担当教員	小笠　智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。

学習内容	環境因子による障害の発生機序、病態、症状、評価、鑑別、予後や救急処置などを理解できるように学習する。
到達目標	溺水・熱中症・偶発性低体温症・高山病・減圧障害・酸素欠乏症・凍傷・紫外線による障害　の　発生機序　病態・分類・主な症候　　病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方・処置を説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「救急救命士標準テキスト第11版」（へるす出版）
留意点 備　考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	環境障害１	溺水　の　危険因子　過程　予後　観察と処置　の　理解　と　習得
2	環境障害２	熱中症　の　発生数の特徴　発生機序　分類　観察　処置　の　理解　と　習得
3	環境障害３	偶発性低体温症　の　発生機序と病態生理　観察　処置　の　理解　と　習得
4	環境障害４	高山病・減圧障害　の　判断基準　病型　観察　処置　の　理解　と　習得
5	環境障害５	酸素欠乏症・凍傷・紫外線による障害　の　症状　分類　観察　処置　の　理解　と　習得
6	試験	試験

科目名	環境障害・急性中毒学(急性中毒学)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Poisoning			総時間数	12	単　位	環境障害と合わせて1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	月	時　限	5.6

担当教員	中尾　隆美	実務者経験	医師、大学病院で救急医療に携わる

学習内容	中毒の病態、症状、評価、鑑別、予後や救急処置、搬送方法等を学ぶ
到達目標	救急救命士に必要な　急性中毒について理解し、適切な対応について説明できる。

準備学習 時間外学習	事前にテキストの閲読、講義ごとの復習が必要
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	中毒総論	定義、疫学、分類、中毒物質 吸収･代謝･排泄、中毒作用、中毒の判断
2	中毒総論	中毒物質の推定、安全確保 中毒物質等の無保存、緊急度･重症度の判断 医療機関での診療、中毒情報センター
3	中毒各論	医薬品中毒、乱用薬物、農薬中毒
4	中毒各論	工業用品中毒 ガス中毒
5	中毒各論	急性エタノール中毒、自然毒中毒、家庭用品中毒 乱用薬物、現場対応と搬送
6	まとめと試験	

科目名	救急用自動車・同乗実習Ⅰ			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Ambulance Training			総時間数	46	単　位	1
学　年	2	学　期	通年	曜　日	期間中随時	時　限	5･6

担当教員	大﨑　聖敏	実務者経験	10年の消防経験(H19.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	学内にある救急自動車を使用し、訓練する。
到達目標	救急自動車内での対応ができる。

準備学習 時間外学習	実技を各自で行う。
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	搬送法	メインストレチャーの曳行
2	搬送法	メインストレチャーの曳行
3	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
4	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
5	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
6	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
7	救急車内の資器材	救急自動車内の資器材の確認
8	救急車内の資器材	救急自動車内の資器材の確認
9	観察	救急自動車内での観察
10	観察	救急自動車内での観察
11	処置	救急自動車内での処置
12	処置	救急自動車内での処置
13	処置	救急自動車内での処置
14	処置	救急自動車内での処置
15	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
16	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
17	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション

18	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
19	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
20	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
21	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
22	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
23	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション